

## 長続きする結婚

もし、あなたが、いつまでもロマンチックな結婚生活を送りたいと思っておられるなら、提案したいことがひとつあります。

まず質問です。四六時中一緒に働き、他の誰をも寄せつけないようなふたりと、それぞれに興味が変わっていて、しばらく離れていては、また振り子のように戻ってくるふたりとでは、どちらの方がさらにひかれ合うようになると思いますか。

驚かれるかもしれませんが、それは、適当な距離を置くふたりなのです。行動科学者たちの調査によれば、健康な関係とは、息のつける関係、つまり親密になったと思えば、また離れるということを規則的に繰り返す間柄です。潮が満ちたり、引いたりという自然なリズムがある方が、また顔を合わせる

時の喜びは、より新鮮になります。ですから、夫婦ふたりだけで仕事をしているのは、必ずしも理想的とは言えないでしょう。夫婦のそれぞれの興味や活動が違っていた方が、愛の火が短い間に燃え尽きてしまわなくて済むのです。

結婚生活は、短距離走ではなく、いわばマラソンのような長距離走ですから、ゴールまで行き着くためには、いつもバッテリーを補充できる体制を作っておかなくてはなりません。

## 夫婦の幸せ

米国では十組中五組の夫婦が離婚すると言われますが、離婚しなかった残り五組の夫婦がどうなるか、考えたことがあるでしょうか。

離婚しなかった夫婦がみな幸せに暮らし、何の思い煩いもなく暮らしているなら良いのですが、そうではないのです。ある調査によると、親密な夫婦関係を築き上げたのは、十組中たった一組の夫婦だけだそうです。親密な関係とは夫婦が親友のように、信頼し合い、理解し合う間柄であることです。

人間はこういう無条件の愛に飢えていると、私は信じます。多くの夫婦が相手にそういう関係を期待しますが、失望に終わっているのです。もしあなただけが、親密な夫婦関係を築こうと熱望しているのなら、それなりの努力が必要で、自分の心配事や必要を、ふたりで話し合うのです。

互いがより近づくのを妨げている原因は何ですか。心を開き、正直に話してみてください。日々愛情を相手に伝える方法を探してください。

暖かな気持ちを伝えるふれあいを、工夫してください。

そして何よりも、尊敬の念をもって相手と接してください。少しずつ努力を積み重ねることによって、一生継続く夫婦愛を築くことが、あなたにもできるのです。



## 結婚生活の最良のとき

離婚率のピークのひとつは、子どもたちが家を離れる、四五歳〜五〇歳の間であることを御存じですか。

新婚時代には、家庭の目的や将来について、いくらでも話をします。共通の興味や願い、夢を分かち合います。

しかし、子どもが生まれると関心事が移り、親としての責任が最優先されます。子どもは成長に従い、学校生活が忙しくなります。部活があり、塾へも行くでしょう。

母親は朝の弁当作りに始まり、家のことや、PTAの会合があり、父親は仕事に追われて暇な時間などありません。

そのため、夫婦が互いに向き合う時間は、極端に少なくなります。ところ

が、まったく突然のように、子どもたちが家を出る時が来ます。親としての仕事は、いきなり終わりを告げます。家は静かになり、電話は鳴りをひそめます。食卓で顔を突き合わせる夫婦には、共通の話題が見つかりません。

バラ色と思われた結婚が、いつしか単なる共同生活に変わってしまうのです。

もちろん、このようなシナリオ通りになる必要はありません。子どものために使ったのと同じくらいのエネルギーを使って、夫婦関係を維持しようとなさえるならば、夫婦が最初の愛情を維持することは、いくらでもできるのです。最善の方法は、夫婦ふたりだけに戻った時のために、家がまだ子どもの声で賑やかなうちに、夫婦だけの時間を確保しておくことです。

## 固い約束

現代の夫婦が直面する多くの困難を考えた時、鉄のように強い意志がなければ初心を貫くことはできないでしょう。そして、困難な時は誰にでもやってくるのです。

結婚して四十年以上にもなる、キースとメアリーという私の友人夫婦がいます。ハネムーンの後、しばらくしてメアリーはポリオにかかり、両手両足が麻痺してしまいました。医者は彼女に、「生涯、車イスの生活を覚悟してください」と告げました。それでもキースは、結婚式でメアリーに誓った言葉を忘れませんでした。以来、彼はずっとメアリーの介護をしています。重い病気の妻と即座に離婚して、新しく健康な妻を娶ることも可能だったでしょうが、そんなことは考えもしなかったそうです。何よりも妻を愛し大切に

にして、困難に立ち向かっている彼を、私は尊敬せずにはいられません。彼らに比べると、今日では多くの人々が取るに足らない理由で離婚しています。

#### キリスト教式の結婚式では

「あなたは、その健やかなる時も、病める時も、豊かなる時も、貧しき時も、この女性を愛し、これを敬い、これを慰め、これを助け、その命の限り、堅く節操を守れることを約束しますか」という誓約を交わします。

キースとメアリーが四十年前の結婚式で交わした誓約は、言葉だけのものではありませんでした。

これから結婚する人のための模範です。





## 結婚前に話し合っべきこと

婚約をしたふたりが話し合うべきことは、式場の予約や披露宴の次第や招待客の席順ばかりではありません。もっと大切なことがあります。

一番重要なのは、表面に出にくい互いの考え方の違いを、知ることでしょう。絶対に譲れない意見を持っていても、結婚するまでそれが表に出ないことが多々あるからです。

例えば、「結婚したらどこに住むか。親と同居するのか。妻は働くのか。働くとしたら、どれくらいの期間か。子どもは、いつ頃、何人欲しいのか。子どもが生まれたら、妻は職場に復帰するのか。出産後どれくらいで復帰するのか。子どものしつけはどうするか。互いの役割分担はどうするか。互いの両親との付き合い方はどうするか。家計はどちらが握るのか。」などを話

し合いながら、ふたりの違いを見つけ出していきます。

率直に話し合う時ふたりは、しばしばショックを受けます。

そのような時は、仲人や尊敬できる先輩夫婦に相談すると良いでしょう。将来ぶつかるであろう深刻な問題を予見して、中には結婚を延期したり中止したりする人たちもいます。健全な結婚生活を送る鍵は、「結婚前には目を大きく見開き、結婚後は半分閉じることだ」と言った人がいます。私もそう思います。

結婚前にふたりが、地に足の着いた対話をするのが、互いの考え方の違いを知るために重要です。

## 間違った罪悪感

夫婦が離婚する時、相手の無責任が原因であったとしても、被害を被った方が、かえって激しい罪悪感に悩まされることをご存知ですか。

残念ですが、それは事実です。相手に拒否されながらも、何とか結婚生活を続けようと努力した妻、または夫は、

「どうしてうまく行かなかったのか。」とか、

「自分がつまらない人間だから、あの人は出て行ったんだ」と考えがちです。

結婚生活の破局は、片方だけの責任ではありません。「喧嘩両成敗」と言われるように、通常、両者に非があるものです。しかし、自分勝手な行動をしたり、浮気をしたり、また家庭で当然すべき役割を怠った人は、自分のとつた行動を正当化するために、相手の過失を激しく責めます。「自分の必要を、

相手は満たしてくれなかった。だから外にそれを求めたんだ」という言い訳をよく耳にします。相手の罪悪感を増すことにより、自分の過失を小さく見せようとしているのです。自尊心の低い夫や妻は、これらの非難や攻撃を、反論できない事実として受け止めてしまうのです。

もしあなたが、このような状態に置かれているとしたら、全てを自分の責任にしてしまうのは、もうやめましょう。起こった状況を客観的に詳しく見てください。すると、自分が結婚に失敗した落伍者ではなく、実は被害者であったことが見えてくるでしょう。

## ..... 珍しいラブ・ストーリー .....

結婚生活には、誰にでも忘れられないラブ・ストーリーが一つはあると思います。今日はとっておきの話をしたいと思います。

キムという男性が、クリスという女性と出会って互いに引かれ合い、結婚を考え始めました。一九九三年の四月に、ふたりは婚約し九月には結婚しました。悲劇が起きたのは、その二ヶ月半後です。クリスが車で事故に巻き込まれて意識不明の重体に陥りました。幸い、彼女は一命を取り留めました。しかし、かなりの記憶喪失が残りました。時間が経つにつれて、少しずつ記憶はよみがえって来たのに、結婚式を含めた過去一年間の記憶はすっかり消えたままでした。けれどもキムは、他人を見るような目で自分を見つめる奥さんの元を離れるのではなく、もう一度、初めて出会った時のように

ゼロからふたりの信頼関係を築くよう努力しました。二年間の努力が裏り、一九九六年のバレンタイン・デーにキムはもう一度彼女にプロポーズをし、五月には改めて結婚式をあげることができました。

ちよつとした問題で、すぐに家庭を投げ出すような現代の風潮の中で、このふたりが、一度失ったものを取り戻したことは、多くの人々に大きな感動を与えました。このふたりは、どんな悲劇にあつても夫婦の愛情は守り通すのに値することを、私たちに身を持って示してくれたのです。



## 隣の芝生は青く見えるが…

社会学者たちの言うことを信じるならば、現代社会で不倫は、ますますありふれたものになっています。

分別があるはずの、教師や医者や政治家たちが、一時の慰めを求めて家庭や仕事や子どもたちを犠牲にしています。

それでは、真面目な生活を捨てて、新しい恋人を追いかける人たちのそれからは、どうなるのでしょうか。

私は、そういう人たちが何年にも渡って追跡した結果、彼らも結局は真面目な生活に戻って行くことを発見しました。

隣の芝生は青く見えますが、その芝生もやはり手入れが必要ですし、仕事はしなければなりませんし、炊事や洗濯や掃除が待っていますし、恋愛感情

も長続きはしません。前の夫や妻と同じ様な欠点が目につき始め、新しい生活も、また束縛に思えて来ます。その時、彼らはどうするでしょう。ある人は、また新たな恋人を捜しながら、自分でもわけが分らずに渡り歩き、結局は何も得られません。かわいそうな子どもたちは、どうして。パパがもう家にはいないのか、そしてママがどうしていつも泣いているのかが、分りません。

映画やテレビでは、不倫を楽しいゲームのように描きます。確かに、そのように見えるかも知れません。しかし、不倫は、ゆくゆくは苦痛と幻滅に終わるのです。



## 赦すこと

アメリカでは何か悪いことをされた時、「赦して、忘れろ。」という言い方をすることがあります。人を心から赦すとはどういうことでしょうか。

先日ある夫婦について、信じられないような新聞記事を読みました。車椅子を手放せない生活をしている女性が、ご主人をバットで殴りつけて、ひどい怪我を負わせたというのです。ふたりが結婚したてで、まだ若かった頃、奥さんが一度不倫をしたことがあったそうです。彼女が言うには、五十年もたっているのに、いまだにご主人が、その時の失敗を思い出して責めるので、とうとう我慢の限界に来たというのです。

恐らく、ご主人も、

「僕は、君を赦す。一緒に、やり直そう」と、一度は言ったのですが、

本当の赦しかなかったのは明らかです。

ある心理学者が言っています。「赦すとは、自分を傷つけた相手にやり返す権利を、放棄することです。」と。

この定義は、私が今まで聞いた中で、一番意味深い定義です。復讐する権利を本当に放棄した時に初めて、本当の意味で相手を赦したと言えます。もう一度言います。赦すとは、自分を傷つけた相手にやり返す権利を、放棄することなのです。

